

龍潭通り沿線地区都市景観形成基準

項目		内容
敷地境界	囲障の設置／位置	石垣による囲障を設けることが望ましい。囲障位置は道路境界より後退させ、その幅は建築物壁面の最小後退幅に準ずる。(0.9m後退) これによれない場合は、0.45m以上かつ敷地奥行き距離の1割以上後退させ歴史的景観に調和する。
	囲障の形態／構造	伝統的な琉球石灰岩石積による石垣、又は同様の景観を有する石貼りで、高さ1.2m程度とする。 生垣の場合は、風土樹種の刈り込み、竹垣はチニブ垣とする。
	囲障の開口部	道路に面した囲障の開口部の幅は、1カ所あたり3m以内に抑えるよう努める。
	門・門扉	門・門扉を設ける場合は、ヒンプン、ヤージョウ、木門などの伝統的な形態を活用することが望ましい。シャッターを設ける場合は、落ち着いた意匠とし壁面の背後に配置するなど道から直接見えにくいよう努める。
建築物	壁面位置 (最小後退幅)	道路境界から建築物の外壁、又はこれに代わる柱面を0.9m(半間)以上後退して、雨端空間や緑化空間を確保する。これによれない場合は、0.45m以上かつ敷地奥行き距離の1割以上後退させ歴史的景観に調和する。
	建物高さ	建物高さは軒高1.2m以下とし、絶対高さ1.5m以下とする。ただし、龍潭に面する区間は絶対高さ1.0m以下とする。
	屋根・軒	赤瓦勾配(概ね5寸勾配)屋根とする。前面道路に対して軒を出すことが望ましい。寄棟が望ましいが、切り妻形式の場合は平入りとして軒を見せるように努める。 赤瓦は、本瓦、又はS瓦、断熱瓦葺きとする。
	外壁意匠	建物が直接道路に面する場合、石等の自然素材を用いて歴史性のある意匠とすることが望ましい。
	外壁色彩	基調をなす部分には、金属系の素材やけばけばしい色を用いず、ベージュ、アイボリー系等の淡色として歴史的景観に調和する。
	庇	道路側1階部分に、赤瓦の庇を設けることが望ましい。軒裏の意匠も歴史性に調和するよう十分配慮する。
	用途	道路の面する1階は、商業・業務利用が望ましい。ただし過剰な装飾性を有する施設類(パチンコ店等)は制限する。
付属物・設備等	車庫／物置等	道路に面した車庫・駐車場の開口部の幅は、3メートル以内に抑えるよう努め、むき出しにならないよう配置や修景に配慮する。シャッター等は囲障の背後に配すなど道路に直接面しないものとする。物置等も街路景観を阻害しないよう位置形態に配慮し、色彩はベージュ、アイボリー系等の淡色として歴史的景観に調和する。
	建築付帯設備／ 構造物等	水タンクや室外機等は、できるだけ道路から見えない位置に設ける。また屋根上に配する場合は、屋根の形態(シルエット)を維持できる収まりを考慮すると共に、遮蔽等修景に努め、色彩はベージュ、アイボリー系等の淡色として歴史的景観に調和する。

	自動販売機類	道路から広く目視される位置には、できるだけ設置しない。設置する場合は建築物等への一体的な組み入れや衝立てによる遮蔽など、位置、形態、色彩等に配慮し、歴史的景観を阻害しないよう努める。
	その他	困障のない場合、後退した建物の前面には可動物に限り設置可とする。(商品ワゴン、鉢物)。不要物は放置しない。ちり箱などの設置の際は位置や色彩、形態に配慮し、景観を阻害しないよう努める。
屋外広告物等	屋外広告物	設置する看板の数は、最小限として、素材・形態・色彩等は歴史的景観に配慮し工夫する。
	石巖当	石巖当を設ける場合は、素材・形態・色彩等などは歴史的伝統的なものとし、周辺の景観との調和に十分配慮する。
緑化	グリーンベルト	困障、又は建築物を後退した部分のうち少なくとも道路境界から30cmの区間は裸地、又は透水性の舗装とし沖繩らしい草花や地被植物などを植栽する。植栽以外のものは置かない。
	敷地内緑化	敷地内の景観木は保全する。また建築物の後退した空間は、中高木、花木により積極的に緑化する。歴史的、風土的な樹種を主に、周辺との調和を図る。
造成等	木竹・土石の採取	斜面樹林は保全する。 木竹の伐採、土石類の採取により、歴史的伝統的景観の維持に、はなはだしい支障を及ぼさないよう留意する。
	土地形質の変更	宅地の造成等土地形質の変更については、適切な植栽を伴うこと等により、周辺地域の景観と著しく不調和にならないものとする。擁壁は単調さによる異質な景観を生み出さないよう配慮する。道路から視認される擁壁の表面は、石または石に類するものとして歴史的景観に調和する。法面が造成される場合は可能な限り暖勾配とし、緑化を図る。

壁面位置の道路は龍潭計画道路境界を指す。

道路	電柱	景観を損なわないよう電柱・電線類は地下埋設とする。
	街灯	歩道には、高齢者や視覚障害者、生活者の安全面から歴史性に配慮した街灯を設置する。
	歩車道舗装	歴史性に配慮して、歩道は石畳敷きとし、車道は石粉舗装に近い印象の脱色アスファルト等の硬質舗装とする。
	バリアフリー	バリアフリーに配慮した整備等として歩車道の段差をなくする。
	その他	ミーガー（共同井戸）の保全、修景を図る。 世持橋を再現し歴史的景観に寄与する。 ポケットパークを創出し緑陰、ベンチ等を配する。
緑化	街路樹	歴史的風土樹種により緑陰を形成し、花木により賑わいをつくりだす。ゲート空間やポケットパークにシンボルツリーによる緑化を図る。

※ただし書き等の例外規定の取り扱いについては、地域のまちづくり協議会等の審査を要する。